

ベビーカー

アップリカ

ソラリア プレミアム



【特徴】たわみにくいフレームを採用してシートの揺れを抑えた。地面からシート座面までの高さは50㎝と同社標準品より12㎝高い。サイズは開いたときが幅485×奥行き690～950×高さ860～1035㎜。閉めたときは幅485×奥行き380×高さ855～960㎜。重さは7.5㎏。色はビージュブラウン、ダマスクブラック、ビージュグリーン。

【発売日】9月7日
【価格】5万9850円

コンビ

ディアクラッセ オート4キャス エッグショック



【特徴】上中位モデルには、背もたれ部分の裏側に開閉式の通気孔を設けた。サイズは開いたときが幅491×奥行き850～1000×高さ920～1125㎜。閉めたときが幅491×奥行き430×高さ898～1010㎜。重さは6.7～8.1㎏。色はコハク、サクラ、アジサイ、ノーブルアイビー、プレシャスブラック、トラッドブラウン。

【発売日】10月1日
【価格】5万2500～7万3500円

ベビーカーの高品質化が進んでいる。業界大手のアップリカ・チルドレンスプロダクツ(大阪市)とコンビ(東京・台東)は、赤ちゃんが安全、快適に過ごせるように日よけカバーやシートを大幅に改良した新製品を売り出した。少子化で環境が厳しさを増すなか、品質にこだわる親を引きつけるようにアピールにしのぎを削っている。

新製品 バトル

座面上げて照り返し防ぐ

アップリカの「ソラリア プレミアム」は日よけカバーが二重構造になっており、気候などに応じて使い分けられる。1枚は通気性が高く、赤ちゃんが透けて見えるメッシュ素材のカバー。もう1枚は防寒性と紫外線のカット率が高い。赤ちゃんは汗をかきやすいため、特に夏場は熱がこもらないように、内部にこもるのを防ぐ必要がある。赤ちゃんをいっしょに見守っていられる利点もある。赤ちゃんの背中から押すことも可能。手元のハンドル操作で切り替えられる。コンビの「ディアクラッセ オート4キャス エッグショック」は、赤ちゃんが乗るシートの座面を地上55㎝と従来品より大幅に高めた。体温調節機能が弱い赤ちゃんを、日光の照り返しから守る狙いがある。

専門家の目	
フットブレーキやリクライニング調整ベルトなどが大変操作しやすい。片手でも楽に押せる(遠藤)	ハンドルの位置が高く、車輪が大きいので、背の高い男性でも使いやすい(遠藤)
車輪はクッション性のあるサスペンション構造で、路面の凸凹の影響を緩和する(高祖)	後方の車輪だけが自動的にロックされるので、小回りが利きやすく方向転換しやすい(高祖)
ハンドルの持ち手部分の角度を調節できるので、身長に合わせて楽に押せる(向山)	行きたい方向にタイヤが回りやすく、楽に押せる。安定感があり、滑らかな移動が可能(向山)
赤ちゃんの状態や場面に応じて切り替えられる2種類の日よけカバーが魅力的(遠藤)	振動吸収性は、安全性の目安となるSG規格を満たす両対面式ベビーカーでは随一(遠藤)
赤ちゃんの自然な姿勢をサポートするシートは、手足の動きを妨げない(高祖)	日よけカバーの窓が通気性を高める。タイヤ側面の空気室が振動を吸収するのに効果的(高祖)
使い分けられる2種類の日よけカバーは切り替えが簡単。細かい角度調整もできて重宝(向山)	シートが高いので、路面からの熱やほこりから赤ちゃんを守ってくれる(向山)
ダマスクブラック色はカバーの内側に高級感ある柄を付け、年齢が高めの人にも受けそう(遠藤)	メッシュタイプのカバーはリボンのように巻き上げられ、見た目のかわいさで女性に人気(遠藤)
シートなどにメッシュ素材を使ったり、通気孔を設けたりして通気性が高いのは好感が持てる(高祖)	従来品より2センチ大きくてしっかりした作りの車輪や高いシートが安心感をもたらす(高祖)
片手、ワンタッチで開閉できるのは赤ちゃんを抱いたときなどに便利(向山)	折り畳む際に背もたれが自動的に起き上がるので、楽にすっきり収納できる(向山)
	赤ちゃんの快適さ
	その他の注目点

遠藤まさ子氏……情報サイト「オールアバウト」ベビーカーガイド
高祖常子氏……ウェブサイト「こそだて」、育児情報誌「miku」編集長
向山多美子氏……ショッピング検索サイト「コネコネット」ベビー・キッズ用品担当

日よけ、通気・防寒使い分け

子育て中か育児経験がある人で、ベビーカーを使ったことがあるのは



ベビーカー(バギーを含む、以下同じ)の国内販売台数は近年、少子

化を背景に減少傾向が続いていた。ただ、2012年は前年比横ばいとアップリカは予想している。赤ちゃんの成長に合わせて買い替える親が増えていることが下支え要因になっているという。金額では前年比8%増と見込む。価格が比較的高い製品の需要が増えているため、「祖父母の来店が目立って増えてきた」(大手ベビーカー用品店の赤ちゃん本舗)ことも単価の上昇に一役買っているようだ。



安全性を最も重視 80・0%。ベビーカーに乗せるのは2歳以下の子が一般的だが、「利用年齢が上がる傾向にある」(コンビ)といい、3〜4歳の子供がいる親でも14・3%が使っている。ベビーカーの購入時に重視する点を3つまで挙げてもらったところ、「安全性」が46・7%で最も多く、「価格」「重さ」「押しやすさ」が続いた。購入する製品を誰が決めたかでは「妻」が52・0%で、「夫婦で話し合った」も32・0%いた。

日経産業地域研究所が調査会社のマクロミルに委託し、11月9～11日に20～60代の男女1000人にインターネットで聞いた。

「新製品面」は木曜日に掲載します。「日経消費ウォッチャー」オンライン・データベース(www.nikkei-trim.net/watcher)で関連情報が見られます。

前輪は自由に動くが後輪の左右の動きは自動的に止まるため、狭いところで小回りが利く点も共通する。アップリカでは「公共の場にエレベーターが増えたことなどを背景に、以前と比べて軽さより機能性を重視する消費者が増えた」と話す。赤ちゃんは安全、快適で押し手の自分は扱いやすい。そんなベビーカーを求める親たちを前に、競争が一段と熱を帯びそうだ。(田中紹夫)

両社の製品は、それぞれ独自に開発した振動吸収性の高い素材をシートに採用。ともに、車体の揺れが内部に伝わりにくく、赤ちゃんのストレスを減らす効果があるとしている。

アップリカ製品同様、赤ちゃんと同じ向き合ったり背後にいる形になったりできる。シートに近い、ハンドルの根元を握って切り替える方式だ。「赤ちゃんが誤って指を挟まれないように押し手が確かめられることを重視した」(ベビ事業本部)

ツッセ オート4キャス エッグショック」は、赤ちゃんが乗るシートの座面を地上55㎝と従来品より大幅に高めた。体温調節機能が弱い赤ちゃんを、日光の照り返しから守る狙いがある。